

第8章 計画実現に向けて

1. 計画の評価と進捗管理の考え方

本計画で取組む施策の進捗や効果を評価するために目標指標を設定します。

目標指標は、本計画の目標年である、概ね20年後の令和25年(2043年)を想定して設定します。

また、施策の進捗状況やその効果の発現等について、各年単位でのモニタリングを継続的に実施するとともに、概ね5年ごとに施策・事業の実施状況について調査・分析及び評価を行います。

さらに、社会経済情勢やニーズの変化等も踏まえ、計画の妥当性を精査・検証したうえで、必要に応じて計画を見直します。

2. 目標値の設定

1) 居住誘導に関する目標値

居住誘導区域における居住の促進や居住環境の形成などの施策の効果を把握するための評価指標として、居住誘導区域内の人口密度を設定します。

居住誘導区域全体の人口密度は、現状では約34人/haとなっていますが、このまま推移した場合、約20年後には約18人/haにまで低下すると推計されます。

今後、立地適正化計画の推進により人口減少を抑制することで、将来目標値として、居住誘導区域内の人口密度を25人/haと設定します。

評価指標	基準値 [※]	目標値 [※]
居住誘導区域内人口密度	34人/ha	25人/ha

※ 国立社会保障・人口問題研究所による『日本の地域別将来推計人口(平成30年(2018年)推計)』を基に算出しているため、基準値は平成27年(2015年)、目標値は令和27年(2045年)としている

2) 都市機能誘導に関する目標値

誘導施設は、市民の日常生活の維持・向上に寄与するため、現在立地する誘導施設の立地を維持することが必要です。このことから、誘導施設として位置づける施設数を維持することを目指します。

評価指標	基準値	目標値
誘導施設の施設数	9施設	現状維持

3) 公共交通に関する目標値

「御所市第6次総合計画」や「御所市総合交通戦略」と整合を図り、「人口1人当たりの近鉄・JR御所駅の年間利用回数」を目標指標とします。

評価指標	基準値 [※]	目標値
人口1人当たりの近鉄・JR御所駅の年間利用回数	近鉄御所駅：26.9(回) JR御所駅：8.0(回)	近鉄御所駅：34.3(回) JR御所駅：11.7(回)

※ 新型コロナウイルス感染症による影響を考慮して、令和元年(2019年)としている

3. 期待される効果

目標達成により期待される効果は下記のとおりです。

期待される効果	基準値	目標値
他の市町村に移りたいと考えている 若者、子育て世代の割合※	25.9%（令和4年）	15%

※立地適正化計画の策定に関するアンケート（令和4年6月実施）によると、40代以下の定住意向が低くなっており、他の市町村に移りたいと答えた人の割合も、全体の平均が12.2%なのに対して、40代以下の世代では25.9%となっています。前項で設定した目標値が達成されることにより、都市の魅力が向上し、若者、子育て世代の転出抑制が期待されます。

